

## 国際農業工学レポート

### 八田與一さんの功績

2013年三月、台湾、台南市の烏山頭ダム湖のほとりに八田與一さんの妻の像の除幕式が行われた。八田さんは台湾総督府に勤務して水利事業などに従事した。特に、台湾南部の嘉南平野の開発では、烏山頭ダムを初めとして、隧道や細かい水路を建設する大規模な計画を立案。総督府職員の立場を捨て、現地に設立された組合の「嘉南・農田水利会」の技師として、工事を推進した。官民の「身分差」がきわめて大きかった当時としては、異例の“身の振り方”だったという。

烏山頭ダムの着工は1931年であり、完成までに約10年を要した。ダム設計にあたり、八田さんはコンクリートをほとんど使用しないハイドロリックフィル工法を採用。同工法で作られたダムは湖底に土砂がたまりにくいという特徴があり、同期に作られたダムの多くが土砂のために機能を果たせなくなっている中で、烏山頭ダムは現在もしっかりと機能している。

### 農業開発に携わる場合に心がけるべきこと

技術者としての八田さんは、米国などの工法や建設方式の研究も怠らず、世界的にみても一線級の水準を持っていたとされる。ダムだけでなく、巨大水路網を合わせて設計・建設した。さらに、ダムを建設しても嘉南平野全体で稲作をするには水が不足することを見越し、稲、サトウキビ、畑作とそれぞれの土地で3年周期で植え付けを交代する「3年輪作制」を採用させるなど、利用者である農民の利益を常に考えていたという。

八田さんの全体を俯瞰して未来をみるという姿勢は私自身も学ば

なくてはならないものであるし、また農業開発に携わる場合に心がけないことであると思う。

参考文献

BigLife21 column

<http://biglife21.com/column/5951/>